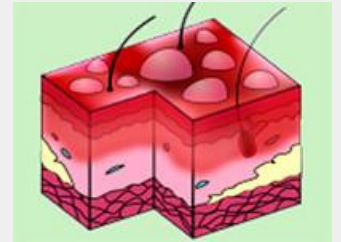




【カイロ・カーペットによる低温火傷】

2月は1年の中で最も寒い月とされています。外出の寒さ対策にはコート、マフラー、手袋などの防寒着を身に着ける以外にカイロを使用する方は多いと思います。長時間体を温めてくれる優れたもので、最近では靴の中使用タイプもあるようです。あたたかく便利な一方では低温火傷の危険性があることをご存じですか？

通常の火傷は表面から焼けてできます。高温でできた火傷は見た目がひどくても、皮膚から遠い深部にいくほど、軽くなっていきます。ところがカイロや床暖房、パソコンの充電式電池への長時間接触により表面よりも深部が重い火傷を負ってしまうのです。低温火傷の場合、真皮に加わった熱の多くは血流へ、残りは真皮の下の皮下脂肪の方に伝わります。真皮の深い部分や皮下脂肪は真皮の表面ほど血流が多くないので熱による傷害が大きくなってしまいます。このために低温火傷は見た目が軽く見えても、皮膚の土台の真皮の深部や脂肪細胞に傷害が残るので治りにくいのが特徴です。自覚症状としては、ちょっと水ぶくれができた程度なので、軽視して、放置してしまう人も多いそうです。やけどには、一定の時間と温度の条件が重なると発生します。



44℃ 3～4時間 46℃ 30分～1時間 50℃ 2～3分

冬場の低温火傷の原因としては、カイロが一番問題となります。正しく使えば問題ないので、以下の注意ポイントを押さえて使いましょう。

- 同じ部位に長時間当てない。湯たんぽは袋やタオルでくるむ。
- 就寝時には使わない。ふとんが温まったら寝具の外に出す。
- 違和感を感じたら使用を中止する。赤くひりひりする場合は、冷水で局所を冷やす。床暖房においては眠ってしまった場合がきっかけとなります。深酒をした場合には特に用心が必要です。床暖房上での飲酒はほどほどにしましょう。

【2月の外来のご案内】

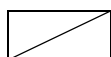
- 形成外科外来 2/3(土)、17(土)
- 外科外来 2/10(土)岡部先生不在

2月の外来診療案内

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月の外来診療案内

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



午後休診日



休診日

Tel : 0284-71-0181

<http://www.anz.or.jp/>



【発行：医療法人杏林会 今井病院 広報委員会】